



平成 27 年 5 月 14 日

各 位

会社名 インフォテリア株式会社
代表者名 代表取締役社長 平野洋一郎
(コード番号:3853 東証マザーズ)
問合せ先 取締役コーポレート本部長 齊藤裕久
(TEL 03-5718-1250)

営業外費用、特別損失の計上および通期業績の前期実績との差異に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、平成27年3月期（平成26年4月1日～平成27年3月31日）決算における営業外費用および特別損失の計上をすることを決議いたしました。また、当該期間にかかわる業績予想を公表しておりませんでした。が、前期実績との対比において、差異が生じたので下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 営業外費用および特別損失の内容

(1) 連結財務諸表における営業外費用および特別損失の発生

- ① 当社が保有する関係会社株式につき、平成27年3月期決算において重要性が増したことに伴い、持分法適用範囲に含めた事により、持分法による投資損失38百万円を営業外費用に計上いたしました。
- ② 当社の100%連結子会社であるInfoteria America Corporationにつきまして、当初計画において想定していた収益の計上が遅れていることから、同社の事業環境、財政状態及び経営成績を勘案した結果、のれんを減損処理し、減損損失58百万円を特別損失に計上いたしました。

(2) 個別財務諸表における特別損失の発生

- ① 当社の100%連結子会社であるInfoteria America Corporation並びに櫻楓天（上海）貿易有限公司につきまして、当初計画において想定していた収益の計上が遅れていることから、同社の事業環境、財政状態及び経営成績を勘案した結果、関係会社株式評価損120百万円を特別損失として計上いたしました。
なお、当該関係会社株式評価損につきましては、連結決算上相殺消去されるため、連結財務諸表に与える影響はございません。
- ② 当社の100%連結子会社であるInfoteria America Corporationにつきまして、当初計画において想定していた収益の計上が遅れていることから、同社の事業環境、財政状態及び経営成績を勘案した結果、当該子会社に対する債権について、貸倒引当金繰入額96百万円を特別損失として計上いたしました。
なお、当該貸倒引当金繰入額につきましては、連結決算上相殺消去されるため、連結財務諸表に与える影響はございません。

2. 業績見込み数値と実績値との差異について

① 平成27年3月期通期連結業績と前期実績との差異（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期（平成26年3月期） 実績(A)	1,487	206	187	70	6.50
当期（平成27年3月期） 実績(B)	1,451	70	35	▲75	▲5.15
増減額(B-A)	▲36	▲136	▲151	▲145	—
増減率(%)	▲2.4	▲66.0	▲81.2	—	—

② 平成27年3月期通期個別業績と前期実績との差異（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期（平成26年3月期） 実績(A)	1,436	296	275	160	14.88
当期（平成27年3月期） 実績(B)	1,421	305	304	▲7	▲0.52
増減額(B-A)	▲14	8	29	▲168	—
増減率(%)	▲1.0	3.0	10.6	—	—

3. 差異の生じた理由

① 連結業績

売上面につきましては、前期に比べ当社製品ASTERIAシリーズ内の「ASTERIA MDMOne」が減少したことによります。利益面につきましては、海外展開における子会社の販売費及び一般管理費の増加に加え、営業外費用（持分法による投資損失）及び特別損失（のれんの減損損失）の計上により営業利益、経常利益及び当期純利益ともに前期を下回ることとなりました。

② 個別業績

売上面につきましては、連結業績に記載のとおりです。利益面につきましては、特別損失（関係会社株式評価損および貸倒引当金繰入額）により当期純利益が前期を下回ることとなりました。

※平成27年3月期の業績につきましては、本日公表の「平成27年3月期 決算短信」をご参照ください。

以 上